

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800063		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホームもやいの家ひきみ		
所在地	島根県益田市見見町見見イ50-1		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和5年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和5年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス、有料老人ホームが併設されている複合施設。
お客様と関わる職員が顔なじみの関係性が築けている。
日々の生活の中でメリハリのある生活やお客様が安心して住み慣れた環境に囲まれ過ごせることを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた山間の静かな場所に位置し、デイサービス、有料と合わせた複合施設としてスタートして丸18年が経過。中心市街地から離れている為、職員確保が難しくデイサービスの閉鎖に続き、年度末で業務を終了し、同グループの他の場所に移転し2ユニットで再スタートすることになっている。近くに学校や公共施設があり、地域との交流も多く有事の際の支援体制もできていた為、この度の移転には、入居者や関係者から惜しむ声が多く聞かれている。コロナ禍の中で移転を前に、慌たしい1年だったようだが、経験豊富な職員を中心に業務が進められており、入所者は安定した生活が送れている。今後もスムーズに移行できるように職員で協力して進めていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年法人の理念・方針の基づき事業所目標を設定。職員各々の目標や役割を定めお互いに支えあいながら行っている	グループ全体の理念、事業方針を基本とし、益田エリアで事業の見直しを定めている。これに沿って個人目標を作成し半年後と年度末には評価を行い次年度に繋げる形をとっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域コーディネーターの協力や公民館、小中学校から声をかけていただき、匹見フェスティバル、産業文化祭への作品展示の参加、マラソン大会への応援参加が行えた	以前は地元の学校などとの交流の機会が多かったがコロナ禍で激減。昨年末くらいから徐々に行事が行われるようになってきており、文化祭には手作業の作品を展示したり、施設内からロードレースの応援をすることができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は文書開催となっているが、施設での勉強会の資料を共有している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は文書開催となっているが、研修や行事等の活動状況を報告して意見を得ている	コロナ禍で文書開催となっており、利用者の身体状況、行事活動状況、研修や委員会、事故報告等を、家族や包括等に送り意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議報告や介護認定申請書の提出等、匹見総務課の担当者や包括支援センター職員に事業所の実情をお知らせしている	包括には毎回運営推進会議の報告を行い意見をもらっている。役場の地区担当の保健士からは一人暮らしの方の情報を得たり、市の担当課とは認定調査の際に関わりがあったり、介護保険関連の問い合わせをしたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的実施し、勉強会やケアの振り返りを行っている	身体拘束廃止委員会を定期に開催し、マニュアルの確認やスピーチロックの勉強会、実際に事例が起きた際の手続きの書類の確認などを行っている。拘束のないケアを実践しているが、今後は身近な事例を取り上げ理解度を高めることとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を定期的実施し、勉強会やケアの振り返りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を年間計画の中に組み込み制度の理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様へ書面及び事前に電話で連絡をし説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やお客様アンケートを実施し意見を伺う機会を設け改善に努めている	年1回開催していた家族会はコロナ禍で中止しているが、家族対象のアンケートは実施して意見を得ている。利用者の体調等変化があった場合は電話で連絡をするようにしている。普段の様子は写真に撮り送っており、1年でポケットアルバムができるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人目標を設定し半年毎に面談を実施し振り返りや進捗確認を行っている	施設移転に伴う業務が増大したことや職員の確保が困難であるため、定期の面談の他、職員会議や申し送りの時間を利用して、意見が出るように考えている。	職員個々の意見が多く聞かれモチベーションアップに繋がるような工夫をしていただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能等級評価表、目標管理シート等で給与待遇面を反映する仕組みがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量、意欲に合わせたステップアップのための研修制度、グループでの研修参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会を通じ、改善に向けた他事業所の情報共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査、面談を行い把握している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査、面談を行い把握している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やケアマネ、関係各所より情報を得ながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様のできる力を見極めながら生活の中で役割をもっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況をお伝えしながら、ご利用者様に関わる事柄について支援をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅周辺までのドライブや、馴染みの方に散髪をしていただく事を継続している	近所の関わりのある美容院から定期的な訪問で髪を切ってもらったり、染める方は送り迎えでしてもらっている。合併前の郡だったころの広報を見て懐かしい時間を共有したり、自宅付近へのドライブの機会をつくるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を把握し、職員が間に入りながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院加療が必要となり、退居されたご利用者様、ご家族に対し、特養施設との連絡や情報提供を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中やご利用者様の思いに沿いながら把握に努めている	要望を聞けるよう声掛けをしているが、聞くだけではなかなか出てこないため、日頃の様子を見たり、家族から話を聞いたりしてできること、好きな事が続けられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活に関わっておられた方々に情報をお聞きしながら把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態や生活状況の把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、状況確認の情報共有を行い、介護計画の内容検討を行っている	モニタリングを定期的に記入し6ヶ月に1回計画の見直しをしている。コロナ禍となり家族を交えて担当者会議をすることはできていないが、電話等で意見を聞き職員で行い了承を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を1ヵ月ごとに振り返り情報共有を行い、介護計画の内容検討を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2週間に1回、PTによる機能訓練、マッサージ等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問散髪や地域コーディネーターとの関わりを持ちながら地域との繋がり暮らしを支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や緊急時、休日にも相談できる関係ができている	今までのかかりつけ医を続けることも、施設の協力医に変わることもできるが、往診があり緊急時の対応が可能な協力医に変更する方が殆ど。地元からの入所が多く元々のかかりつけ医と協力医が同じことが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職がおらず地域資源もないため、かかりつけ医に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室やMSWとの連絡や情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合における対応、急変時におけるの確認書を説明し同意を得ている	職員体制や設備面でも重症化に対応できない為、看取りは行っていない。重度化した場合は主治医や家族等含めて話し合いを行い、他施設への移行がスムーズにできるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置、夜間急変時は応援・連絡体制をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害確保計画を整備、避難訓練を行っている	山間の平坦な場所で川にも離れているが、土砂災害のイエローゾーンになっていることもあり、定期的な訓練を行っている。原則垂直避難が適しており、主に火災の夜間想定で訓練を協力して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員会や勉強会や会議の場で日々のケアの振り返りを行っている	ケアの場面での声掛けについては、周りの人にどのように聞こえるかを考えるように話しているが、コロナ禍の数年は家族や外部の人と関わる機会がなく、距離感を感じており、研修で備えることとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様が自己決定できるような声掛けや生活ベースを把握しながら働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動参加やご利用者様への提案となるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪の際は髪染めの希望を聞いたり、スキンケア用品を準備していただける支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けを一緒に行っている	できる作業は一緒にするようにしている。次年度への移行時期でもあり、ご飯と汁物は作っているが、主菜、副菜についてはできた物を利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態の工夫を行い、確保を支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、お声掛けや誘導を行っている	布パンツで自立の人もあるが、大半は紙パンツにパットの使用者が多い。声掛けのいる方、確認のいる方と個々に違いがあるが、不快に感じないように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操の実施や牛乳など提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、午後からの入浴時間を設けており、入浴の間隔を把握しながらお誘いしている	普通の家庭浴槽で重度になると浴槽に入ることが難しいが、今は全員中に入りゆっくり温まることができている。週2から3回は入れるように、声掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ休息をとれる環境を整え、見守りや声掛けを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストで確認が出来ており、処方薬局薬剤師と相談することができる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、収穫や草抜きなど役割を持っていただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの郵便局まで手紙を出しに散歩や自宅周辺ヘドライブや季節に合わせて車で外出している	コロナ禍となり外出の機会は大幅に減っているが、2Fでの生活でベランダがあり、天気の良い日にはいつも外気浴ができ、2Fから町の風景が眺められる。周辺の散歩もしているが、施設内での生活が長い為か、外を歩くと不安感を訴える方が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持されておられるご利用者様はおられないが、欲しいものがある時はご家族様にお願ひしたり、立替金で使用できる仕組みがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援や手紙を書かれる習慣のある方にはご家族様に切手を用意していただきながら支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動風景の写真や季節に合った作品の展示をするなど工夫をしている	道路に面しているが通行量は少なく車の騒音は無く静か。建物が2Fなのでダイルームや廊下からも外の景色がよく見え季節の変化を感じることができる。窓から陽が入り適度な明るさもある。壁にはその年の干支の飾りや手作業の作品が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチ、話ができる環境、天候の良いときはテラスに出られる等、環境を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時よりご利用者様が使い慣れたものや馴染みの物を持参していただけるようにしている	使い慣れた物の持ち込みを薦めているが、あまり多く持ち込まれていない。クローゼットに収納ができ、テレビや衣装ケース等が置かれている。日中の大半をダイルームで過ごす方が多く、部屋にはベッドだけという方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりやすいように目印となるものを付けている		